

黄体ホルモンを活用した牛受胎率向上技術の開発(平成 23~25年度)

牛の不受胎期間の短縮に 黄体ホルモンを活用



現 状

○乳牛の不受胎期間が長い
ので、乳をたくさん出す期間が短い

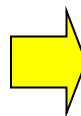
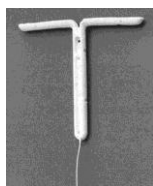


○農家でも簡単にできる方法で
不受胎期間を短縮させる方法はないか？

○通常は排卵調整剤として使われている
黄体ホルモン製剤(膣内装着型)を活用
できないか？

研究内容

発情不明牛の治療に使用する
排卵調整剤を活用し、
不受胎期間を短縮できるか
どうかを調べる。



黄体ホルモン製剤
(膣内装着型の排卵調整剤)

従来は排卵を促すため人工授精前に使用
今回の試験は受胎を良くするために、人工
授精後の牛に使用

〈検討項目〉

- 1 受精後に排卵調整剤を使った
時の血液検査や栄養状況
- 2 排卵調整剤を使った時の
妊娠する乳牛としない牛の差

研究目標

- 妊娠しない乳牛を早く発見
- 不受胎期間の短縮
(194日→173日)

期待される効果

- 妊娠していない期間の
短縮による
出荷乳量の増加
- 酪農家の経営安定

